

公表日：2023年2月1日

事業所名：高原クリニックデイサービス

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	児童発達支援のグループ療育に使用するプレイルームと個別療育や発達検査を行う相談室を完備し、面談などに利用できる個室も準備している	「どちらとも言えない」、「わからない」が1名ずつ、その他は十分に確保できているとの回答を得た	現状維持を継続しつつ、今後、利用者数やクラス編成などの変化に応じて、その都度、検討していく
	2 職員の適切な配置	児童発達支援のグループ療育では、常時2名以上のスタッフで対応、放デイは1対1の個別で関わっている(スタッフは全員保育士、心理士、言語聴覚士、特別支援教育士などの有資格者である)	「どちらとも言えない」が1名、その他は全員、職員の配置数や専門性は適切であるとの回答を得た	今後も現状維持を継続しつつ、子ども達の状況に応じ、臨機応変な対応がとれるよう職員配置を考慮していく
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	相談室は1階、プレイルームは2階に位置しているが、室内はフルフラットで、水回りも子ども用に配慮した構造をとっている	「どちらとも言えない」が2名、その他は全て設備整備が整った環境であると評価されている	個々のニーズを可能な限り導入した環境整備を徹底していく
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	プレイルームは、二面採光で明るく、粗大運動も可能な広いスペースを確保し、個別は、1室に1家族で完全個室の状態で落ち着いて取り組める環境を備えている	すべての回答において、生活空間の確保については、問題ないという回答を得た	今回の保護者の評価に驕ることなく、今後も子ども達の生活空間の確保に努める
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	小児神経専門医師による診断、心理士による発達検査を行い、スタッフ全員によるカンファレンスを実施し、全員でケースについて検討を重ねている		今後も小児神経専門医、心理士、特別支援教育士、言語聴覚士、保育士など多職種連携のもと、より良いサービスの提供に努める
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	現在、実施していない		今後の検討課題とする
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	当施設理事長である小児神経専門医師による施設内での勉強会の開催、また自治体や各種団体主催の研修会、講演会へ参加し、スタッフ間で情報を共有している		コロナ禍ではあるが、オンラインなども活用して、今後もスタッフ各自の自己研鑽の場を確保していく
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	小児科医師、心理士によるアセスメントを行い、保護者と面談の後、児童発達支援管理責任者を中心に担当者全員で個別支援計画を作成している	すべての回答において、ニーズ分析や課題が支援計画に適切に反映されていて、具体的な支援内容が明確に設定されているという評価を得た。	今後も現状維持を継続していく
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	児童発達支援では、基本、母子保育での集団から開始し、状況を判断して、母子分離、個別等へと移行する。放課後デイサービスは、個別指導を基本としている		母子通園、小グループ、個別指導などの当施設の特徴を活かして計画を作成していくことを基本とする
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	長期目標、短期目標を設定し、総合的な支援や、具体的な支援内容について明確に記載している	すべての回答において、子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載がなされているとの評価を得た	今回調査の保護者のご回答に驕ることなく、今後も現状維持を継続しつつ、支援内容の変化については、具体的かつ柔軟に対応していく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
支援の提供 (続)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	個別支援計画に沿った療育を基本としているが、利用者の変化を迅速に察知し、計画の見直しも視野に入れた対応をしている	「わからない」が1名、その他はすべて、計画に沿った適切な支援が実施されているという回答であった	現状維持を継続しつつ、今後も利用者の変化に応じて、迅速かつ柔軟な対応をとっていく
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	新入児については、小児科医師も含めたカンファレンスを全員で行っている。医師、心理士、特別支援教育士、保育士、幼稚園教諭の多職種で連携し、立案している		今後も現状維持を継続していく
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	長期休暇も学校園開校日と同様に療育を実施している		利用者の状況に応じ、臨機応変に対応可能な受け入れ体制を今後も維持していく(ただし、日曜、祝日は閉所している)
支援の提供 (続)	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	スタッフ間での意見交換や、外部で開催の研究会、講演会へも積極的に参加し、活動プログラムに有益な情報確保に努めている	すべての回答において、工夫がなされているとの回答を得た。「小学校の授業に役立つように教えてくれている」「季節ごとに作品を作ることでイベントを知る良い機会になっている」というコメントを頂戴した	現状維持を継続しつつ、可能な限り、新しい取り組みも導入していく
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎朝、クリニックでスタッフ間で健康状態や連絡事項を確認後、就業開始し、利用者には当日の健康状態も含めた児の様子を保護者から聴取し、事前に用意しているプログラムが的確か否かを判断の上、療育を開始している		コロナ感染拡大防止の観点から、スタッフの健康管理にも留意し、現状維持を継続していく
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	療育終了後は、利用者個別の記録を各々記載する。スタッフ間で療育を振り返り、意見交換のうえ、現状と課題について検討している		今後も、現状と課題についての検討に加え、非番の担当者も理解できるように記録を確実に残すことを基本とする。また、終了後、換気や消毒の徹底も行っている
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	利用日ごとに、個別の記録ノートを記載し、状況把握や、スタッフ間での情報交換している		上記記載事項同様に、今後も現状維持を継続していく
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	発達検査のデータをもとに、スタッフ間で情報、意見を出し合い、児童発達支援管理責任者を中心に定期的に計画の見直しを行っている		今後も現状維持を継続していく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関と連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	相談支援専門員からの要請があった場合は、利用者の情報を提供している。担当者会議への参加の経験は無し		今後、要請があれば、それを受けて、可能な限り、参加していく
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	関係機関各所からのご希望があれば、保護者のご意向を確認のうえ、随時、施設見学や懇談を受け入れている		今後も現状維持を継続していく
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	当該機関からのご希望があれば、情報提供は可能であるが、現在まで、実施実績は無しである		当該事業所からのご依頼があれば、保護者の方のご同意を得たうえで、情報提供に応じる(保護者の方のご意向を重視)
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	日常業務に支障を来さぬ範囲内で、外部機関主催の研修へ参加している		オンラインも活用し、スタッフそれぞれが今後も引き続き、自己研鑽に努める
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	実施実績無し	「いいえ」が20名(51.3%)「わからない」が11名(28.2%)「どちらとも言えない」1名(2.6%)「はい」7名(17.9%)の回答であった	今後の検討課題とする
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	実施実績なし		今後の検討課題とする

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
説明責任・説明	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に保護者に、重要事項説明書に沿って説明している	「どちらとも言えない」「わからない」が1名ずつ、その他はすべて、丁寧な説明がなされているとの回答を得た	今後も現状維持を継続していく
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	計画作成時は、保護者と面談日を設定して説明を行っている(放デイは個別指導で保護者も毎回ご来院されているので、必要に応じて説明が出来る状況である)	「どちらとも言えない」「わからない」「いいえ」が1名ずつ、その他はすべて、計画を示しながら内容が説明されたという回答を得た	今後も現状維持を継続していく
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	正式なプログラムに対応したペアレントトレーニングとしては、実施実績無いが、母子通園の利点を活かし、親子の関わりについても指導内容に組み入れている	「どちらとも言えない」4名(10.3%)、「いいえ」2名(5.1%)「わからない」2名(5.1%)「家族支援プログラムが何かがわからない」というコメントが存在した	保護者の訴えもしっかりと受け止めつつ、家族や兄弟も含めた関り方について、引き続き、支援していく
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	母子保育での利用者には状況確認を保護者と共有し、分離での利用者には、送迎時にその都度、連絡、報告を行っている	すべての回答において、「はい」という結果であった	今後も保護者と共通理解の徹底ができるように努める
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	保護者からの訴えや、悩みに共感しつつ、適宜、助言を行っている	「どちらとも言えない」が1名、その他はすべて助言などの支援が行われているとの回答であった	こどもの発達支援に保護者と共通理解をもちつつ、療育に取り組んでいく
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	特に行っていないのが現状である	「いいえ」16名(41%)「どちらとも言えない」7名(17.9%)「わからない」8名(20.5%)「はい」8名(20.5%)であった	放課後デイサービスは個別対応が基本となっているので、保護者同士の連携は困難である。今後の検討課題としていく
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	重要事項説明書に、苦情受付窓口を記載している。円滑かつ迅速に解決するために、スタッフ間で、検討する。必要であれば、外部機関と連携し、対処する	「はい」32名(82%)「わからない」6名(15.4%)「いいえ」1名(2.6%)であった	苦情があった場合は、迅速かつ適切に対応できるように、スタッフ全員総力をあげて解決していく
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	視覚支援を取り入れ、個々の特性を考慮した教具を利用している。放デイで単独通院している利用児については、保護者との情報伝達は、面談や連絡ノートを活用している	「わからない」2名、その他はすべて保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているとの回答であった	今後も現状維持を継続していく
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	会報の発行はしていない、行事予定や活動内容については、掲示したり、担当者が保護者に直接お知らせしている	「はい」9名(23.7%)、「いいえ」11名(28.2%)「どちらとも言えない」5名(12.82%)「わからない」14名(35.9%)であった	母子通園が基本であるので、保護者との情報共有は毎回可能ではあるが、今後の検討課題とする
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報に取扱いに関しては、パソコンのウィルス対策や、紙媒体でのデータの管理も慎重に各自が責任をもって対応している	「わからない」3名(7.7%)その他はすべて個人情報の取り扱いについては十分注意されているという回答を得た	個人情報の取り扱いについては、今後もとくに慎重に行っていく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	消防署のご指導のもと、基準を満たした防火設備を完備し、感染症については、状況の変化に沿って法人理事長である小児科医の指示通りに対応している。	「はい」29名(74.4%)、「いいえ」5名(12.8%)、「どちらとも言えない」1名(2.6%)、「わからない」4名(10.3%)であった	今後も、緊急時の対応や、感染症拡大防止については、全スタッフ一丸となって検討し、取り組んでいく
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	尼崎西消防署の署員の方、立ち合いのもと、定期的な避難訓練を実施しているが、今年度は未実施。消防設備点検は実施した	「はい」22名(56.4%)、「いいえ」7名(17.9%)、「わからない」9名(23%)、「どちらとも言えない」1名(2.6%)であった	放課後デイは個別対応が基本となっているので、訓練の実施していない。今後の検討課題とする
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	職員研修において、徹底している		日々の保護者や子ども達の様子を敏感に感じ取れるように努める
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	該当する利用者は無し		今後、必要が生じた場合には、全スタッフで検討する
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	児童発達支援のグループでは、おやつを提供しているので、アレルギーのある児については、施設長である医師の指示どおりに対応している		今後も現状維持を継続していく
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットの「報告書」を作成し、全職員で情報を共有できるようにしている		ヒヤリハットに該当する事例が生じた場合には、報告書を作成し、原因を明らかにして、改善策を速やかに検討していく